

大豆の播種作業について

○播種時期

品 種 名	播 種 時 期 ※	畦幅 cm	株間 cm	播種粒数 粒/株	栽植本数 本/10a	播種量 kg/10a	百粒重 g
ツルムスメ	5月中旬～下旬	66	15	2	20,200	9.3	46.0
トヨムスメ			18		16,800	6.3	37.5
ユキホマレ	5月中旬～6月上旬		15		20,200	7.1	35.1

※地温が極端に低いと発芽不良や病害を受けやすくなりますので、極端な早播きは避けましょう。

○種子消毒

種子伝染性の病害やタネバエ・アブラムシ伝搬による「わい化病」を防ぐため、必ず実施して下さい。

【主な種子消毒剤】

農 薬 名	処 理 濃 度	対 象 病 害 虫			
		タネバエ	アブラムシ類	苗立枯病	斑点細菌病
クルーザーFS30	乾燥種子1kg当たり6ml	○	○		
クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり8ml	○	○	○	
粉衣用ペア-カスミンD	種子重量の0.3%～0.5%	○		○	○

※クルーザー使用にあたっての注意事項

- ・播種条件 : 低温時や過湿条件で播種すると、出芽率の低下や出芽が遅延する恐れがあります。
- ・処理時期 : 播種当日又は前日
- ・処理手順 : クルーザー → 乾燥後 殺菌剤 → 根粒菌 (但し、ノーキュライド種子は根粒菌の接種は不要)

※転用種子が供給された方については斑点細菌病防除の為、「粉衣用ペア-カスミンD」を使用して下さい。

○播種について

- ・播種の深さは3cm程度とし、覆土は均一に行う。
- ・碎土が粗い場合や、土壌が乾燥している場合は播種後に鎮圧する。但し、降雨が予想される場合は鎮圧しない。
- ・排水不良や滞水により出芽率が大きく低下してしまうので、額縁明渠・心土破碎・均平を怠らないようにしましょう。

○除草剤

農薬名	使用方法	使用時期	反当使用量	対象雑草
エコトップP乳剤	土壌処理	播種後～出芽前	400～600ml	畑作一年生雑草
フルミオWDG	土壌処理	播種後～出芽前	5～10g	一年生広葉雑草
ロロックス	土壌処理	播種直後～出芽前	100～200g	畑作一年生雑草
パワーガイザー液剤	土壌処理兼 雑草処理	出芽直前～出芽揃	200～300ml	一年生広葉雑草

○施肥の目安

(kg/10a)

土壌区分	N	P	K
低地土	1.5	11	8
泥炭土	1.5	12	10
台地土	2.0	12	8

- ・土質により施肥量を調整しましょう。
- ・リン酸苦土が不足している圃場には熔燐や苦土入りの基肥を施用しましょう。
- ・大豆栽培においては石灰成分が必要となりますのでタンカル又は生石灰を必ず施用しましょう。

○大豆狭畦栽培について

- ・狭畦栽培は薬剤のみの除草となりますので、正しい薬剤の選択と散布適期を逃さないようにしましょう。
- ・狭畦栽培における適正な栽植密度は 30～40本/m² です。（播種量は12～15kg/10a）

【グリホサート剤による収穫前処理について(主にラウンドアップマックスロード)】

同剤の使用により、収量や品質の低下、残留農薬が検出されていることにより、大豆出荷業者や消費者からの不安が高まっております。

上記のことから、「落葉終期～収穫14日前」での使用は品質低下並びに適用外となるリスクがあることから使用を控えるようお願い致します。尚、令和2年産以降、上記内容で使用した場合、JAの大豆共計では取り扱いができず、受託扱いとなります。

※畝間散布機による使用も同扱いとなります。

J A み ね の ぶ 営 農 販 売 課

TEL 0126-67-2334 FAX0126-67-2803